

Chapter 2

安全で事故のない 企業をめざします

「安全」な事業環境を構築するためには、事故を未然に防ぐ技術および体制の整備はもちろんのこと、現場を支える社員一人ひとりが高い安全意識を持つことが必要です。安心して働ける事業環境を継続するため、コスモ石油グループは日々の「安全」を追求しています。私たちは常に安全を最優先で意識し、事故をゼロにする取り組みを積み重ねていくことで、誰もが「安心」できる社会を築いていきたいと考えています。

安全を守る意識を
ボトムアップで高めて
いくために。

コスモ石油 四日市製油所
教育訓練センター
千賀 葉二



コスモ石油は、安全操業の基盤として人材育成を重視しています。安全を守る最後の砦は、「人」であると考えているからです。教育訓練センターは、石油生産設備の操作技術の習得と不具合が発生した時の対処法を学ぶために、1994年に設立されました。

訓練の内容は、各装置のシミュレーターによる研修のほか、「カットモデル」と呼んでいる装置のミニチュアで、機械の構造についても学ぶことができます。主な目的は、通常時の操作技術の習得ですが、昨年の東日本大震災を受けて「エマージェンシー訓

練」という異常発生時の対処を学ぶことにも力を入れています。

教育訓練センターの役割は、「ものづくり」の現場の視点に立って運転員の安全意識や操作技術向上のための支援を行うことです。日常的に発生する事象については、通常の教育訓練で対応できますが、製油所の安全をさらに高めるためには、非定常、未経験といったOJTでは学べない事態に対しても、思考力や判断力を育み、一人ひとりが考えて行動することが重要だと考えています。



訓練生のコメント

シミュレーターは、実機と操作方法やアラームの作動まで同じなので、操作幅と装置、性状変化の度合いが確実につかめるようになり、シミュレーターで訓練を受けたことが実機を運転する際の自信につながります。訓練を受けたか受けていないかで、実際の操作に臨む際の入りやすさがまるで違ってきます。例えばシミュレーター上でも、正しい操作ができた時は大きな達成感があり、自らの成長を実感することができます。

事故を未然に防ぐためのさまざまな工夫と万が一の事態発生時の確実なそなえが安全と安心につながっていきます。

製油所における「チェンジ21活動」の推進

各製油所およびコスモ松山石油(株)では、「事故ゼロを達成し、それを維持する」ことを最終目標に掲げ「チェンジ21活動*1」と称し、設備の保全レベルの更なる向上と安全管理体制の強化



総合安全対策会議の様子

に取り組んでいます。その結果、2011年の「不安全不具合*2」の発生件数は111件となり、2010年の127件*3から約13%の減少となりました。

今後2011年3月11日の東日本大震災を契機として、千葉製油所で発生したLPGタンク付近における火災・爆発事故、および2012年6月28日に千葉製油所で発生した屋外タンクからのアスファルト漏洩事故の教訓と反省を踏まえ、安全操業・安定供給を達成すべく、課題を着実に克服し安全文化の醸成に努めます。

*1 「チェンジ21活動」を含め連結中期安全計画においては、対象期間を暦年(1月から12月)としています。

*2 コスモ石油グループでは、石油コンビナート等災害防止法に定める異常現象およびこれにいたらないトラブル・不具合、労働災害などを「不安全不具合」と定義しています。

*3 2011年2月より「不安全不具合」の定義を見直し、対象を拡大しました。そのため、昨年のコーポレートレポートでは、2010年実績を「99件」と報告しましたが、新しい基準で評価した場合、2010年実績は「127件」となります。

防災訓練の実施

コスモ石油の当社および各製油所では防災訓練を毎年実施しています。2011年度は、東日本大震災の教訓を踏まえた防災訓練を実施しました。東日本大震災時に火災が発生した千葉製油所では、関係行政の方々や合同事業所である丸善石油化学(株)にもご参加いただき、行政および近隣の会社への連絡体制の確認を行いました。

また、発生が懸念されている東南海・南海地震において被災が想定される四日市、堺、坂出製油所では、津波警報の発令を想定した訓練を実施しました。

コスモ石油グループは、二次災害を含む被害を最小限にとどめ、立地地域の方々をはじめ、社会の皆様から信頼され、安心していただける企業であるよう、今後も防災訓練を実施していきます。



高所放水車による消火訓練

SS工事にかかわる協力会社を集め、安全フォーラムを開催

(株)コスモトレードアンドサービス建築事業部ではコスモ石油のSS/ハード政策にもとづいて、SSメンテナンス工事などに従事しており、毎年3月、協力会社が一堂に会した安全フォーラムを開催し、関係者全員の安全意識向上を図っています。

2011年度の安全フォーラムでは、メンテナンス・塗装・解体・土壌環境の各分野の協力会社より、安全性向上への工夫や改善策などを発表していただきました。また、計量機メーカーから



手動式緊急用可搬式ポンプ/SS向け緊急用発電機

東日本大震災におけるSS被災状況と復旧工事の見通しを発表いただき、全社体制で震災からの復興に全力を注いでいくこと、そして

日常のSS工事での安全性向上に努めることを再認識し、決意を新たにしました。*1 SS工事現場では、建築技術者による安全パトロールが工事の節目ごとに行われており、これが現場の安全性向上に大きく寄与しました。コスモブランド向上をめざし、無事故無災害を継続していきます。



可搬式ポンプによる給油*2

*1 SSにおいて停電時や配管破損の恐れがある場合でも、緊急用可搬式ポンプによる緊急車両への迅速な給油を行うことができたなど、震災時の初動対応を紹介し、非常時の燃料供給方法についても情報共有を行いました。

*2 車上からの給油は震災時における特例給油であり、消防立会いのもと給油しています。